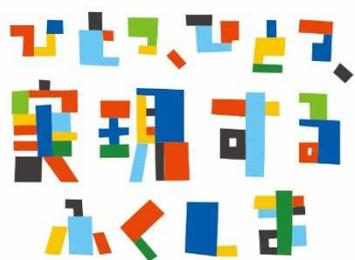


令和2年度 AI時代を生き抜く読解力向上事業

リーディングスキル向上 実践事例集

令和3年
福島県教育庁 義務教育課



頑張る学校応援プラン
～ふくしまの挑戦と戦略～

はじめに

県教育委員会では、頑張る学校応援プランの主要施策1に「学力向上に責任を果たす」を掲げ、その取組の一つとしてリーディングスキルテストを活用した事業を展開しております。

リーディングスキル向上実践事例集は、令和2年度AI時代を生き抜く読解力向上事業における研究協力校の実践研究を基に、リーディングスキルテストを活用した授業改善のポイントをまとめたものです。

本事例集をきっかけにして、読解力向上の重要性を教職員で共通理解し、これまでの授業に「基礎的・汎用的読解力」の向上を意識した改善を加えていただきたいと考えます。

目次

	なぜ、「読解力育成」なのか	1
	リーディングスキルテスト(RST)の活用	3
	子供たちの「基礎的・汎用的読解力」の実態	6
	RSTを活用した授業改善のポイント	10
	授業づくりワークシート	16
	実践事例	17
	令和2年度AI時代を生き抜く読解力向上事業 研究協力校一覧	23

なぜ、「読解力育成」なのか①

社会が変わる、学びが変わる



Society 5.0

Society 5.0 は、人工知能 (AI)、ビッグデータ、ロボティクス、Internet of Things (IoT)等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続的」と言えるほど劇的に変わることを示唆するものであり、第5期科学技術基本計画（平成28年1月22日閣議決定）で提唱された社会の姿です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な社会の構築に向け、今の時代を生きる人々の間にある格差や差別をなくし、豊かな暮らしの実現に向けて努力しつつ、地球上に棲む様々な生物や自然環境にも配慮し、将来に向けた準備を進めていかなければなりません。

AI等の技術の発展と社会の変化は、今後訪れる社会がどのようなものかを正確に予測することを極めて困難にしています。予測困難な社会の変化の中で人間らしく豊かに生きていくために必要な力とは、どのようなものなのでしょうか。



急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

急激に変化する時代の中で、学校教育には、子供たちが持続可能な社会の創り手となるよう、その資質・能力を育成することが求められています。



次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力

- ・文章の意味を正確に理解する読解力
- ・教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力
- ・対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力 など

出典：「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月
【中央教育審議会】



これらの資質・能力を育むためには、学習指導要領の着実な実施が重要です。その上で、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」としています。

なぜ、「読解力育成」なのか②

現状と課題

福島県の子供たちは、家庭における学習習慣が年々身に付いてきており、計画的に家庭学習に取り組む子供の割合は、全国に比べ高い傾向にあります。

また、各学校において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでおり、「授業がよく分かる」と感じている子供の割合も年々増加傾向にあります。

しかし、全国学力・学習状況調査の結果を見ると、学力が低い層（下位25%）が多く、高い層（上位25%）が少ないという課題があります。

福島県の学力向上の取組や、子供たちの努力が結果につながらないのは、なぜなのでしょう。

その原因として一つの仮説が浮かび上がりました。

参考：福島県の教育の現状分析 SWOT分析のバックデータ集

知識を覚えることを中心とした暗記・再生型の勉強方法で、テストに臨んでいるのではないか。

問題文の中に、解決の仕方まで書いてあるのに正答できない。
問題文の意味を理解していないのではないか。

教師の話や指示が伝わっていないのではないか。



そもそも、教科書を正しく読むことができていないのではないか。

仮説

学力が伸び悩んでいる子供たちは、「文章を正しく読み新たな知識を獲得していくことができないため、暗記・再生型の勉強方法に偏ってしまう」、「問題文を正しく読むことができない」、「授業における教師の説明等が理解できない」など、読解力に課題を抱えているのではないか。



学習指導要領には、
「児童生徒の発達の段階を考慮し、**言語能力**、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」
と明記されています。
中央教育審議会では、具体例として以下のことを述べています。

言語能力については、まず、教科学習の主たる教材である教科書を含む多様なテキスト及びグラフや図表等の各種資料を適切に読み取る力を、各教科等を通じて育成することが重要である。

出典：教育課程部会における審議のまとめ 令和3年1月25日【中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会】

リーディングスキルテスト (RST) の活用①

「基礎的・汎用的読解力」とは

- 「基礎的・汎用的読解力」とは、事実や根拠に基づいて書かれた文章（教科書や新聞、説明書など）の意味や内容を正確に理解する力のこと。
- 「基礎的・汎用的読解力」は、リーディングスキルテスト※（以下RSTとする）で測ることができる。小学生から社会人まで、全国で20万人以上が受検している。

学力向上に責任を果たすために、「授業スタンダード」や「家庭学習スタンダード」、ふくしま学力調査等の活用とともに、各教科等の授業で「読解力育成」を視点に授業改善を図ること、また、読解力育成につながる効果的な指導方法を明らかにすることが必要であると考えました。次代を切り拓く子供たちに求められる読解力を「基礎的・汎用的読解力」とし、「基礎的・汎用的読解力」の実態をRSTを活用して調査しました。

※ 提供：一般社団法人 教育のための科学研究所

RSTとは

- RSTは、受検者の「基礎的・汎用的読解力」を6つの問題タイプで測定する。
- インターネットに接続されたパソコンやタブレット端末を使って、CBT (Computer Based Testing) として実施する。(約50分)
- 教科書や新聞、辞書、事典等を出典とした200字程度の短文を読み解答する。知識を問うものではない。
- 難易度を設定した問題が出題される適応型テストであり、受検者の読解力に合わせた問題を出題するため、受検者の「基礎的・汎用的読解力」を正確に診断する上で有効である。
- 小説の主人公の気持ちを考える(情緒的読解力)、詩や俳句の鑑賞などは、出題されない。



RSTを受検すると何が分かるのですか。

テストが終わると、6つの問題タイプごとの能力値と偏差値、結果に応じたアドバイスが画面上に表示されます。また、受検団体の成績概要も提供されます。能力値0は、「中学生の能力値の平均」を表します。



拡大

結果 【受検者ID: 1111-1111-1111-1111】 ID: 99999 受検日: 2020/04/01

今回のリーディングスキルテストの結果です。問題のタイプごとに評価とアドバイスが書いてありますので参考にしてください。

■ 係り受け解析(DEP) 文の構造を正しく把握する。読解力の最も基礎となる能力。

あなたの偏差値 学生・社会人での偏差値: 66
全体での偏差値: 67

POINT 複雑な構造の文や、未知語が出てくる不慣れた文書でも、思わず正確に文を読む高度な読解力を有しています。

■ 照応解決(ANA) 代名詞が何を指しているかを正しく認識する。

あなたの偏差値 学生・社会人での偏差値: 70
全体での偏差値: 72

POINT 複雑な構造の文に見られる照応関係に惑わされず、正確に注意深く読み解く高度な能力を有しています。

【受検者に提供される結果】

リーディングスキルテスト受検結果 (機関別:)

機関名: 受検日: 受検人数:

受検者数 (人)	今期	前期	前々期
能力値平均 (今年)	0.54	0.48	0.45
能力値平均 (前年)	0.48	0.50	0.50
能力値平均 (前々年)	0.37	0.41	0.39
偏差	0.46	0.47	0.49
イメージ判定 (今年)	0.29	0.33	0.33
イメージ判定 (前年)	0.17	0.19	0.19
イメージ判定 (前々年)	0.30	0.30	0.28

係り受け解析 (DEP) ヒストグラム
照応解決 (ANA) ヒストグラム
同義文判定 (PAR) ヒストグラム
排他 (IMP) ヒストグラム
イメージ判定 (DEP) ヒストグラム
イメージ判定 (ANA) ヒストグラム

■ 機関別の能力分布
■ 同様の機関全体の能力分布

【受検団体に提供される結果】



リーディングスキルテスト（RST）の活用②

RSTのテスト設計



RSTの6つの問題タイプって何ですか。

6つの問題タイプとは、「係り受け解析」「照応解決」「同義文判定」「推論」「イメージ同定」「具体例同定(辞書・理数)」です。人が文章を「読む」際に必要な力を11のプロセスに区切り、それを6つの問題タイプで多面的に測定します。



RSTが基準とする読解のプロセス

01

文節に正しく区切る。
(例:私は学校に行く。→私は/学校に/行く。)

02

文の構造を正しく認識する。
(例:大きな黒い瞳の少女。→大きいのは「瞳」である)

03

述語項構造や接続詞を正しく解析する。
(「誰が」「何を」「どうした」のような構造を正しく認識する)

04

照応関係を正しく認識する。
(例:私はハンカチを落とした。それを彼は拾った。→「それ」は「ハンカチ」である)

05

定義文を正確に読むことができる。それによって、未知の「言葉」を獲得することができる。新たに獲得した「言葉」を既知の知識の中に正しく位置づけることができる。

06

日常生活での経験や伝聞から得られる常識と、小学校における学び等から得た知識、簡単な論理推論によって、未知の用語の意味を実世界に関する知識の中に位置づける。

07

日常生活での経験や伝聞から得られる常識と、小学校における学び等から得た知識、簡単な論理推論によって、未知の関係や概念を実世界に関する知識の中に位置づける。

08

既存の知識と新たに得られた知識に対して、論理推論を働かすことにより、実世界に関するさらなる知識を獲得する。

09

得られた多くの情報間の重要度を適切に付与する。特に、与えられた観点において、また問題解決のうえで必要な情報を適切に取捨選択する。

10

以上と同様のことを、非言語情報(図等)についても実行し、文と非言語情報(図等)とを正しく対応させることができる。

11

以上の各処理において誤りがないかをメタな視点からモニタリングして修正する。

文の構造を理解するのは、読解の最も基礎となる能力です。この能力が十分に上がらない限り、それ以外の読解力の向上が見込めないことが数万人のデータから分かっています。

【一般社団法人 教育のための科学研究所】

リーディングスキルテスト（RST）の活用③

RSTのテスト設計



具体的にどのような問題が出題されるのですか。

6つの問題タイプの例は、以下のとおりです。
一緒に解いてみましょう。



RSTの6つの問題タイプ

【係り受け解析】 文章の基本構造を把握する力

以下の文を読みなさい。

天の川銀河の中心には、太陽の400万倍程度の質量をもつブラックホールがあると推定されている。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから1つ選びなさい。

天の川銀河の中心にあると推定されているのは（ ）である。

- 天の川 銀河
 ブラックホール 太陽

【照応解決】 代名詞などが指す内容を認識する力

以下の文を読みなさい。

火星には、生命が存在する可能性がある。かつて大量の水があった証拠が見つかっており、現在でも地下には水がある可能性がある。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを1つ選びなさい。

かつて大量の水があった証拠が見つかっているのは（ ）である。

- 火星 可能性
 地下 生命

【同義文判定】 2つの文の意味が同一かどうかを判断する力

以下の文を読みなさい。

義経は平氏を追いつめ、ついに壇ノ浦でほろぼした。

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。「同じである」「異なる」のうちから答えなさい。

平氏は義経に追いつめられ、ついに壇ノ浦でほろぼされた。

- 同じである 異なる

【推論】 基本的な知識と常識から論理的に判断する力

以下の文を読みなさい。

エベレストは世界で最も高い山である。

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」、「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

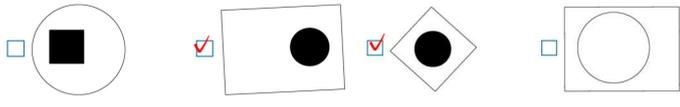
エルブルス山はエベレストより低い。

- 正しい まちがっている 判断できない

【イメージ同定】 文章と図表などを正しく対応させる力

下記の文の内容を表す図として適当なものをすべて選びなさい。

四角形の中に黒で塗りつぶされた円がある。



【具体例同定】 定義を読み、それと合致する具体例を認識する力

以下の文を読みなさい。

2で割り切れる数を偶数という。そうでない数を奇数という。

偶数をすべて選びなさい。

- 8 110 65 0

(辞書由来の問題と理数系教科書由来の問題の2項目ある)

問題：一般社団法人 教育のための科学研究所

子供たちの「基礎的・汎用的読解力」の実態①

令和元年度と令和2年度の2年間にわたり、小学校14校第6学年594名と中学校13校第1・2学年1,095名の「基礎的・汎用的読解力」を調査しました。



RSTの受検結果は、どのように分析したらよいのですか。

研究協力校での分析方法を参考にして、福島県の児童生徒の実態を見てみましょう。



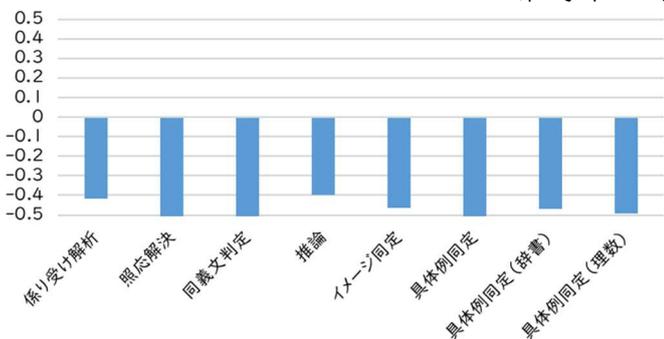
「係り受け解析」「照応解決」の力の育成が重要である

能力値は、プラスの値が大きくなるほど「基礎的・汎用的読解力」が高いことを表しています。能力値を分かりやすくするために偏差値に換算したのも提供されます。

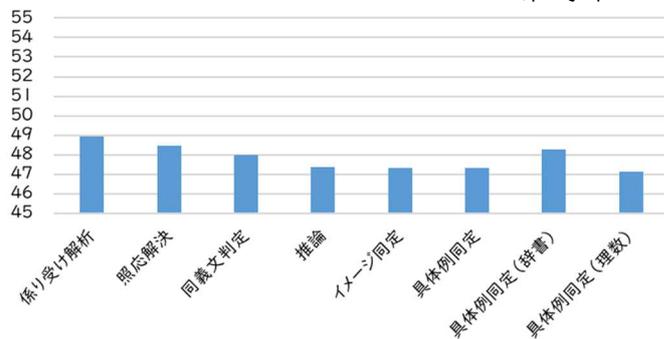
RSTの6つの問題タイプの平均を見ると、集団の傾向が分かります。下のグラフを見ると、すべての問題タイプにおいて偏差値50を下回っています。特に、「具体例同定(理数)」の力が低く、小学校と中学校で共通しています。

「一般社団法人教育のための科学研究所」の分析(P4)を踏まえ、文章を読むうえで求められる最も基本的な力である「係り受け解析」と「照応解決」の力を伸ばすことが重要であることが分かりました。

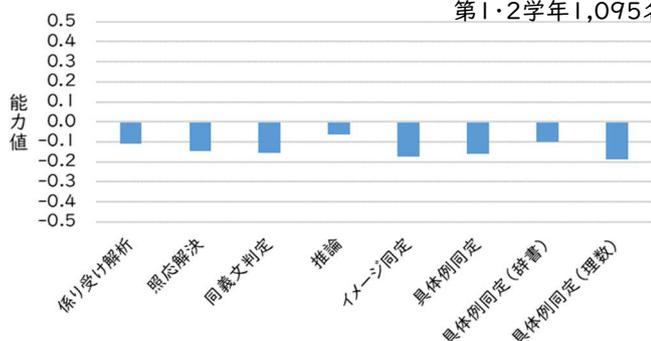
小学生の能力値の平均 第6学年594名



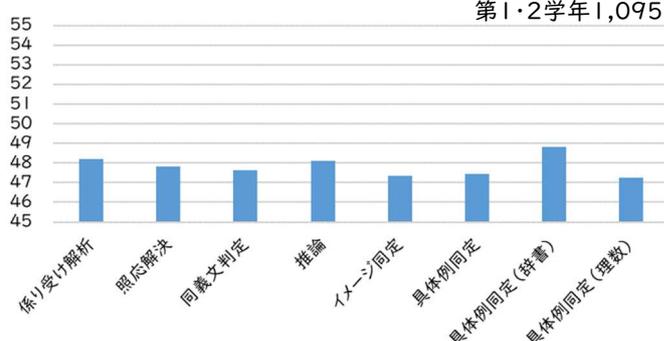
小学生の偏差値の平均 第6学年594名



中学生の能力値の平均 第1・2学年1,095名



中学生の偏差値の平均 第1・2学年1,095名



RSTの結果は、受検した団体で加工できるように、CSV形式となっています。表にして可視化すると、集団の傾向を読み取ることができるね。



子供たちの「基礎的・汎用的読解力」の実態②

「基礎的・汎用的読解力」と全国学力・学習状況調査の結果には、相関がある

- 相関係数の目安
- | | |
|-----------------------|--------------------|
| -0.2~0.2・・・「相関が見られない」 | 0.2~0.4・・・「弱い正の相関」 |
| 0.4~0.7・・・「中程度の相関」 | 0.7~1・・・「強い正の相関」 |

研究協力校において、RSTの6つの問題タイプと平成31年度全国学力・学習状況調査（小学校）の平均正答率との関係を分析したところ、すべての問題タイプにおいて中程度の相関がありました。つまり、全国学力・学習状況調査の問題を解く際には、リーディングスキルの6つの問題タイプで測ることができる力を必要としていることが分かります。また、相関があることを踏まえると、「RSTで測る『基礎的・汎用的読解力』が向上すれば、全国学力・学習状況調査の正答率も高くなるのではないか」という仮説を導き出すことができます。

研究協力校におけるRSTの能力値と全国学力・学習状況調査の平均正答率との相関係数

	係り受け解析	照応解決	同義文判定	推論	イメージ同定	具体例同定
国語正答率	0.53	0.50	0.38	0.41	0.55	0.53
算数正答率	0.49	0.46	0.30	0.44	0.55	0.52

「基礎的・汎用的読解力」と学力調査等の関係を分析するには、まず相関を見てみましょう。



定義文の読解力が学力に影響している

RSTの具体例同定の能力値が「0以上」の集団と「0未満」の集団の平均正答率を比較すると、照応解決、同義文判定、推論、具体例同定において20%以上の差が見られました。国語科と算数科に共通することは、事実を積み重ねて論理的に考える力と、定義を読んで言葉を正しく使いこなせる力が、学力に影響を与えている可能性があるということです。

能力値0以上の集団と能力値0未満の集団の平成31年度全国学力・学習状況調査の平均正答率【国語科】

	係り受け解析	照応解決	同義文判定	推論	イメージ同定	具体例同定(辞書)	具体例同定(理数)
能力値0以上	74.7%	76.0%	75.0%	81.5%	71.5%	79.0%	88.0%
能力値0未満	55.0%	56.0%	58.4%	56.6%	55.9%	53.7%	57.7%
差	19.7%pt	20.0%pt	16.6%pt	24.9%pt	15.6%pt	25.3%pt	30.3%pt

【算数科】

	係り受け解析	照応解決	同義文判定	推論	イメージ同定	具体例同定(辞書)	具体例同定(理数)
能力値0以上	60.7%	66.3%	78.0%	75.5%	62.0%	68.0%	73.0%
能力値0未満	51.7%	51.2%	52.3%	51.0%	51.4%	49.7%	52.6%
差	9.0%pt	15.1%pt	25.75%pt	24.5%pt	10.6%pt	18.3%pt	20.4%pt

小学校6年生の教科書と中学校1年生の教科書で取り扱われる定義文の数は、4倍以上の差があります。

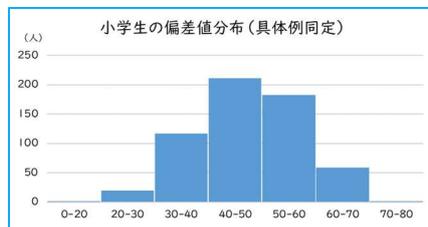
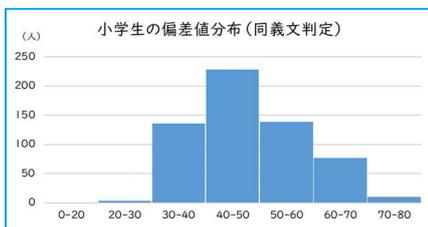
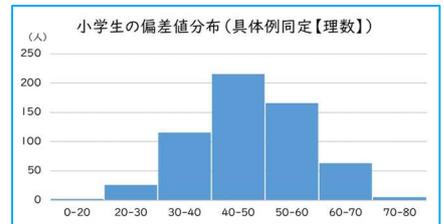
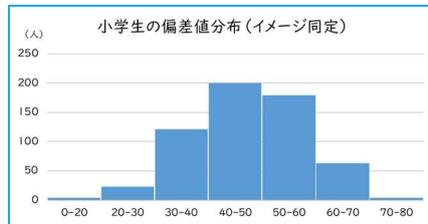
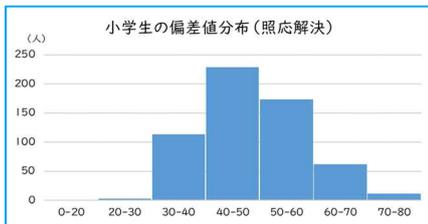
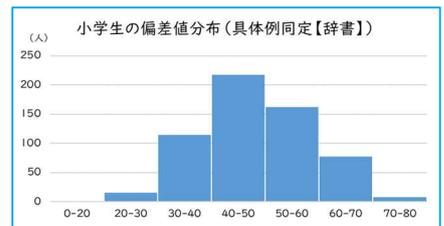
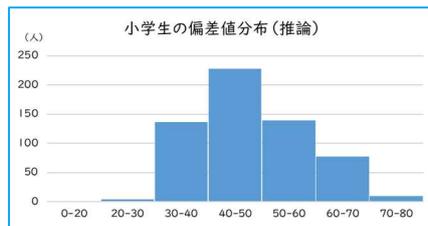
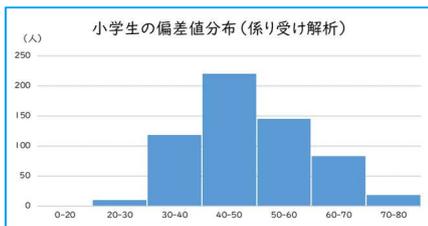


子供たちの「基礎的・汎用的読解力」の実態③

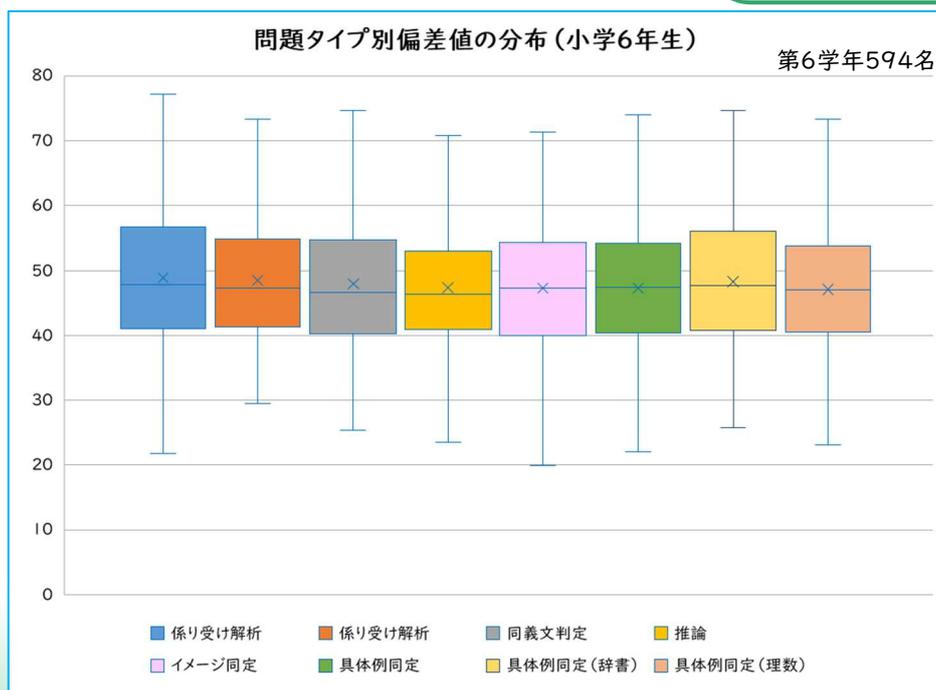
子供たちの「基礎的・汎用的読解力」には、大きな差がある(小学生)

RSTの6つの問題タイプの偏差値の分布を見ると、子供たちの「基礎的・汎用的読解力」には、大きな差があることが分かります。同じ教室には、「教科書を正しく読むことができる子供」と「教科書を読むことに困難を抱えている子供」が混在しています。

また、箱ひげ図を見ると、6つの問題タイプすべてにおいて、集団の50%にあたる子供たちが、偏差値50以下に属していることが分かります。



分散が小さくなれば、授業において、教師の指示や発問が学習に効果的に働き、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が充実します。

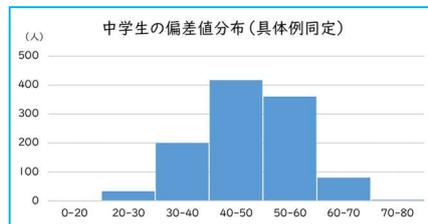
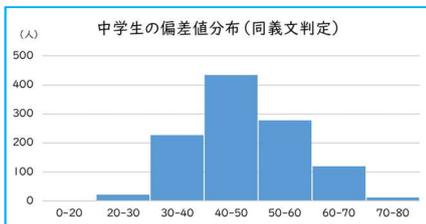
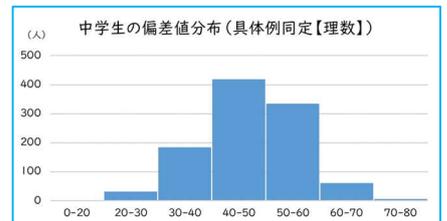
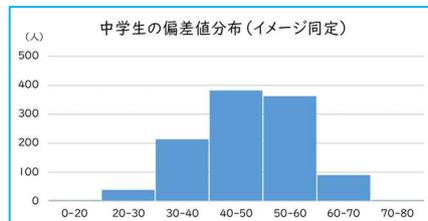
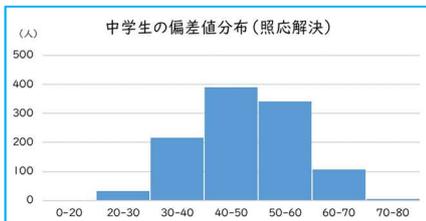
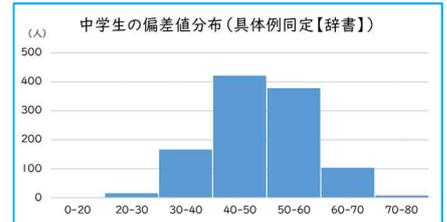
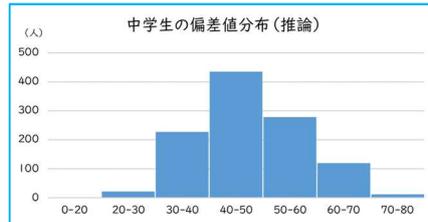
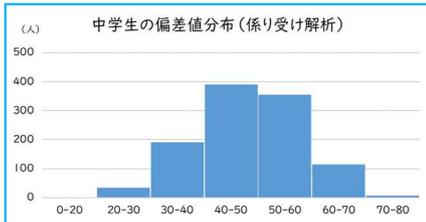


子供たちの「基礎的・汎用的読解力」の実態④

子供たちの「基礎的・汎用的読解力」には、大きな差がある(中学生)

RSTの6つの問題タイプの偏差値の分布を見ると、子供たちの「基礎的・汎用的読解力」には、大きな差があることが分かります。同じ教室には、「教科書を正しく読むことができる子供」と「教科書を読むことに困難を抱えている子供」が混在しています。

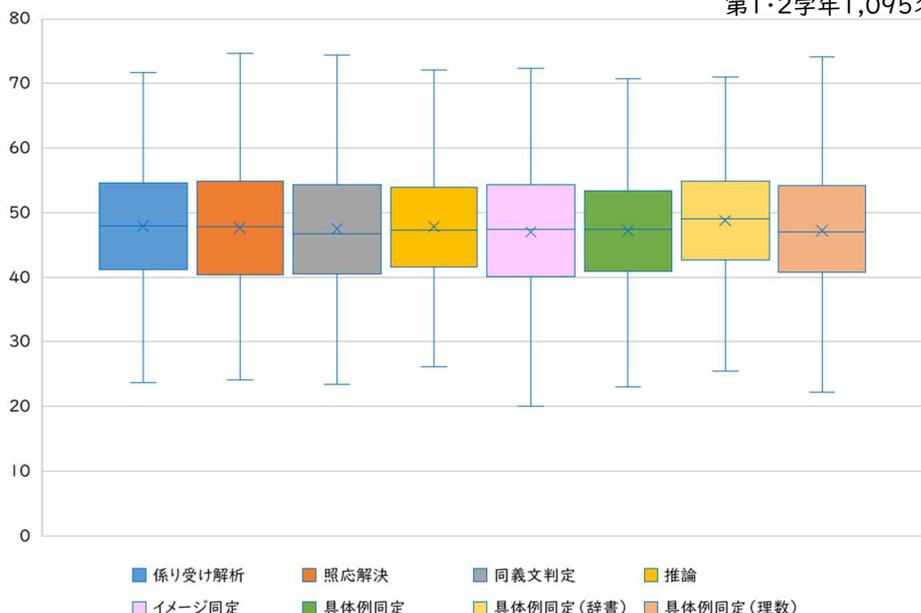
また、箱ひげ図を見ると、6つの問題タイプすべてにおいて、集団の50%にあたる子供たちが、偏差値50以下に属していることが分かります。



中学生の半数以上が、何らかの理由により教科書を正しく読むことができていない可能性があります。RSTを受検することで、個人のウィークポイントを把握することができます。

問題タイプ別偏差値の分布(中学1,2年生)

第1・2学年1,095名



RSTを活用した授業改善のポイント

RSTの結果を、授業に生かすためには、どうすればいいのだろう。

授業の中で、読解力を向上することばかりに時間を費やすことはできません。

読解力を向上するのだから、国語科担当の先生に頼ればいいのか。



「基礎的・汎用的読解力」は、学習を効果的に進めるための学習スキルの一つであり、授業のねらいを達成する土台となる資質・能力です。子供たちが教科書を正しく読み自ら学び続けていくことができるよう、各教科等においてRSTの結果に基づいた指導が必要です。

授業においては「基礎的・汎用的読解力の向上」と「授業のねらいの達成」の二つを両立させようとするのではなく、RSTの視点に基づいた授業づくりが大切です。「授業のねらいの達成」の先に「基礎的・汎用的読解力の向上」があります。



「基礎的・汎用的読解力」の有無が児童生徒の可能性を大きく左右する

○ RSTの結果と全国学力・学習状況調査の結果には、相関関係がある。

「基礎的・汎用的読解力」が高い



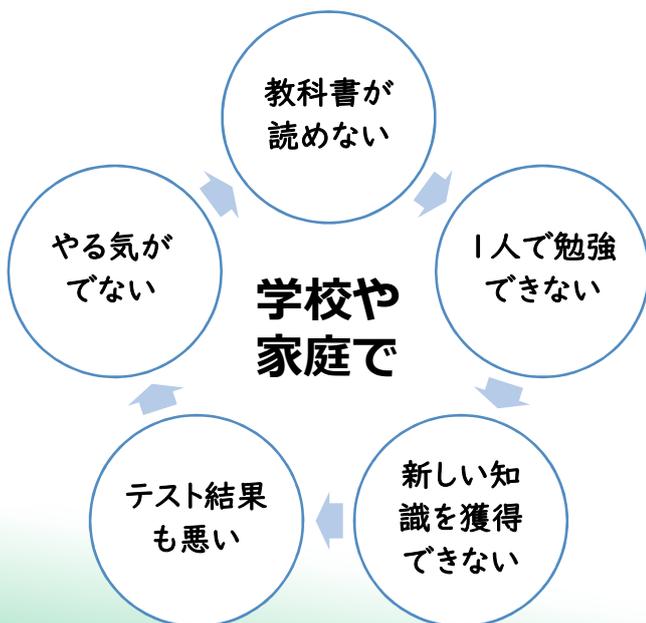
自学自習する力が高く、授業内容を理解する力が高い



学力向上につながる

「基礎的・汎用的読解力」を身に付けないと…

「基礎的・汎用的読解力」を身に付けると…



RSTを活用した授業改善のポイント

令和2年度「AI時代を生き抜く読解力向上事業」に係る研究協力校の実践研究から、RSTを活用した授業改善のポイントを紹介します。

1 教師が、RSTの視点で教科書を読む

- 一文が長く、文の構造を捉えにくい文章を明らかにしておく。【係り受け解析】
- 子供たちが教科書の文章を音読する際に、つまづく語句はないかを確認する。【係り受け解析】
- 省略されている主語や目的語を明らかにしておく。【照応解決】
- 教科書に掲載されている図やグラフ等が、どの文章と対応しているか明らかにしておく。【イメージ同定】

教材研究の際は、教師が、文章や図、表などからより多くの情報を得ながら教科書を読むことが重要です。下の記入例を参考にして、ワークシートを活用しながら教科書を読んでみましょう。



【記入例】

授業づくりワークシート			
教科	5年生社会	教科書	東京書籍 新しい社会5上
小単元名	水産業のさかなな地域		ページ数
			98~99
<p>本時の目標を達成するために おさえたい言葉・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大陸だな ○生産量、生産額 ○水あげ、水あげ量 ○漁港を決めるときなど⇒などは？ ○遠洋漁業、沖合漁業、沿岸漁業 ○まきあみ漁 ○船団 ○魚群探知機 ○集魚灯 <p>※円グラフからの読み取り ・魚の種類 ⇒魚の特性（群れで泳ぐなど）</p>		<p>子どもたちにとって親密度の 低い言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○習性 ○囲いこむ ○あみの口 ○左右される ○数日がかり 	
<p>音読の際の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漁」の読み方。ぎょ…漁業、漁港、漁船、漁法 りょう…まきあみ漁、漁 			
<p>RSTの視点での手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一文を二文にする。(原因・並列・強調などを理解して読めるか確かめる。) ①島の多い長崎県の近くには大陸だなが広がり、魚の種類が豊富です。 ↓ 島の多い長崎県の近くには大陸だなが広がっています。 () 魚の種類が豊富です。 ②長崎県には、大小あわせて230あまりの漁港があり、長崎漁港は県内でも生産額の多い漁港です。 ↓ 長崎県には、大小あわせて230あまりの漁港があります。 () 長崎漁港は県内でも生産額の多い漁港です。 <p>しかし だから そして 一方 また そのため ところで ところが なかでも</p>			

本時で扱う該当ページを読み、子供たちが本時の課題を解決するために、理解しておかなければならない言葉や内容を記入します。

子供たちが誤って音読する語句等を予想して記入します。

教科書の文章を正しく読むことができるようにするために、どのような手立てが必要かを記入します。

「子供たちにとって親密度の低い言葉」とは、「聞きなれない言葉」や「聞いたことがある言葉だけれども、意味を説明できない言葉」のことです。

「左右される」という表現になっている意味を読み解くことができるでしょうか。
教材研究の際には、「子供たちにとって親密度の低い言葉」を明らかにしておくことが大切です。



RSTを活用した授業改善のポイント

2 具体例“生成”や同義文“生成”の活動を取り入れる

- 教材研究では、教科書の定義や「学習用ボキャブラリー※」を、同義で言い換えるとどのような表現になるか、具体例は何かを明らかにしておく。【同義文判定】【具体例同定】
- 授業では、定義を基に具体例を考える「具体例“生成”」の活動や、同義となるように言い換える「同義文“生成”」の活動を設定する。
- 教科書の定義文は、教師が解釈して板書するのではなく、教科書のとおり板書する。

※「学習用ボキャブラリー」とは、様々な文脈で新しい言葉を憶えるために重要な言葉のこと。

学習用ボキャブラリーの例

名詞	形容詞・副詞	動詞
値、影響、感想、 グラフ、参照、参考、 姿勢、状態、資料、 対話、立場、流れ、 物質、部分、面	あるいは、一方、主に、 およそ、さらに、特に、 様々な、すべて、共に、 順に、適切な、ほぼ	応じる、囲む、重ねる、 関する、従う、示す、 対する、伴う、 成り立つ、述べる、 交わる、果たす

出典：「生きる力を身につける14歳からの読解力教室」犬塚美輪（2020）【笠間書院】

子供たちが苦手としている「具体例同定」の力を向上させるためには、定義から具体例を考える活動が必要です。



“自尊心”の意味がわかりますか。



「自分の人格を大切に
する気持ち」です。



“自尊心”がある人ってどんな
人でしょうか。

同義文“生成”



“自尊心”のある人は…

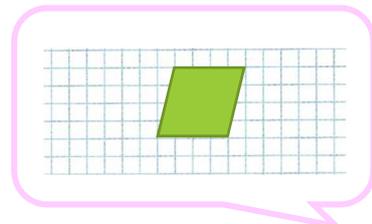


“平行四辺形”とは、向かい
合った2組の辺が平行な四角
形です。



方眼をつかって、平行四辺形を
かきましょう。

具体例“生成”



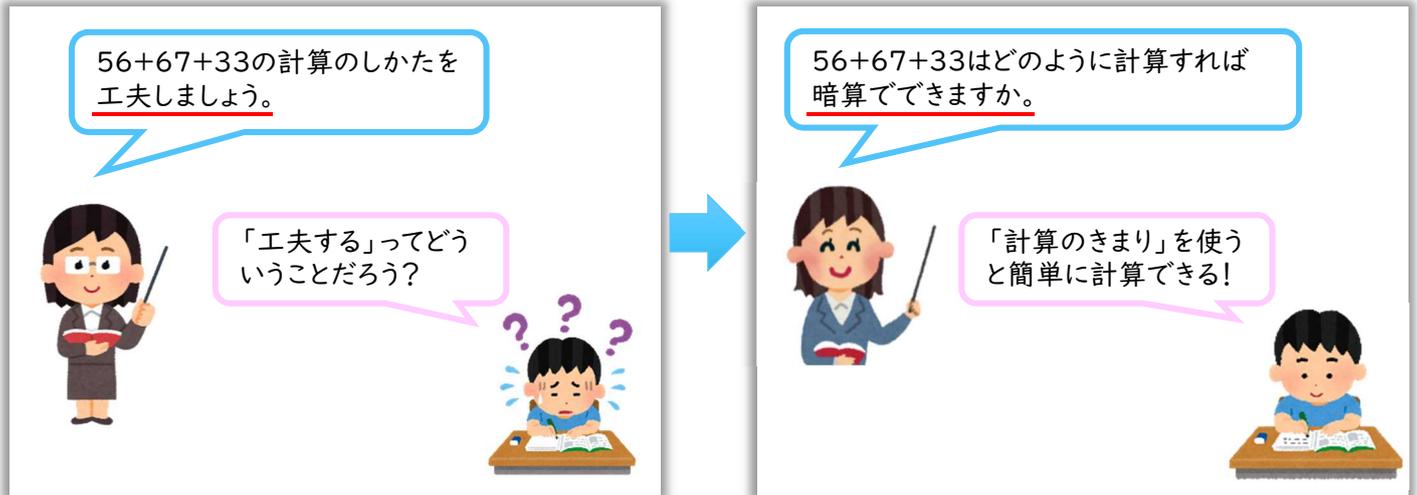
平行四辺形になっているか、定
義文を基に、確認しましょう。



RSTを活用した授業改善のポイント

3 教師の意図等が伝わるような表現を心がける

- 「きちんと」、「ちゃんと」、「工夫して」等、言葉を受け取った側の捉えが一意に決まらない表現は避け、意図や目標を明確に言語化する。(具体例同定の視点をもって教材研究する。)



4 教科書を音読させる

- 文章を読むときには、「文字を音に対応付け、その音を土台として『意味』にたどり着く」という過程があるため、すべての教科で教科書の音読に取り組む。

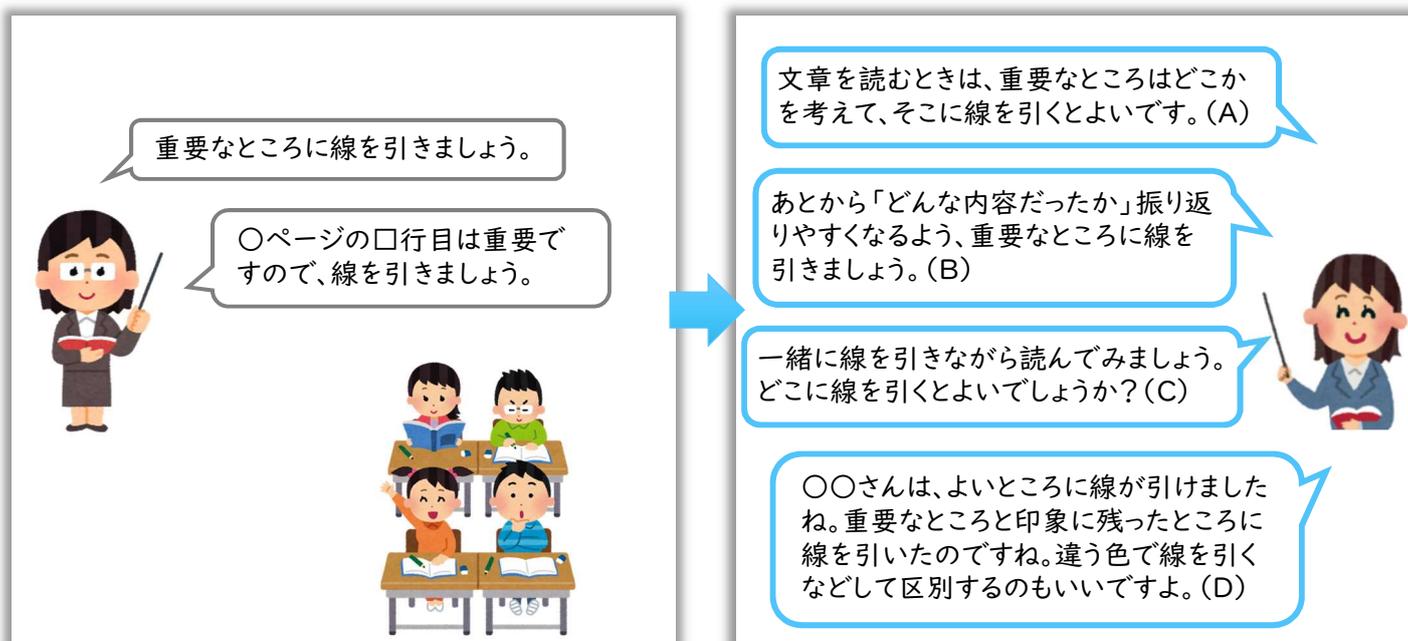
文字を読んで音にする段階がクリアできていると、文章の意味を理解しようとする意識が向きます。流暢に読むことができるようになるまで繰り返し取り組みましょう。



RSTを活用した授業改善のポイント

5 各教科で文章の読み方を明示的に指導する

- 教科書を正しく読むための方略(例:文章に線を引くなど)を明確化し、子供たちに伝える。(A)
- その方略が、なぜよいのかを子供たちに伝える。(B)
- 教科書を正しく読むための方略を使う意図的な練習の機会を設定する。(C)
- 課題の達成についてのみフィードバックするのではなく、課題解決の過程についてフィードバックをする。(D)



重要なところに線を引きましょう。

○ページの□行目は重要ですので、線を引きましょう。

文章を読むときは、重要なところはどこかを考えて、そこに線を引くとよいです。(A)

あとから「どんな内容だったか」振り返りやすくなるよう、重要なところに線を引きましょう。(B)

一緒に線を引きながら読んでみましょう。どこに線を引くとよいでしょうか?(C)

○○さんは、よいところに線が引けましたね。重要なところと印象に残ったところに線を引いたのですね。違う色で線を引くなどして区別するのもいいですよ。(D)

明示的な指導とは、「何をどのように学んだかが誰の目にもはっきりと分かる指導」のことです。明示的な指導を、段階を追って丁寧に進めることにより、子供たちが学んだ「教科書を正しく読むための方略や着眼点等」が、他の場面でも使えるようになります。

6 意図的にアウトプットの機会を設定し、誤読していないかを確認する

- 「とても楽しかったです。」「すごいと思いました。」など、子供たちがよく使うあいまいな表現ではなく、具体的に表現させる。
- なぜそうなるのかという理由を説明させたり、本当にそう言えるのかという妥当性を判断させたりする。(推論)(具体例同定)
- 教科書の文章を図表等に表現させる。(イメージ同定)

授業の中で、「子供たちが教科書をフル活用する」ことを心がけて教材研究をしましょう。
特別な取組を始めるのではなく、日々の授業の中に「基礎的・汎用的読解力」向上の視点を加えたり、「どう読むか」を明示的に指導したりすることが大切です。



17ページ以降の、具体的な事例を見てみましょう。

RSTを活用した授業改善のポイント

	項目	頁
<input type="checkbox"/>	一文が長く、文の構造を捉えにくい文章を明らかにしておく。	PI1-1
<input type="checkbox"/>	子供たちが教科書の文章を音読する際に、つまずく語句はないかを確認する。	PI1-1
<input type="checkbox"/>	省略されている主語や目的語を明らかにしておく。	PI1-1
<input type="checkbox"/>	教科書のどの文章が掲載されている図やグラフ等と対応しているか明らかにしておく。	PI1-1
<input type="checkbox"/>	教材研究では、定義や「学習ポキャブラリー」が出てきたら、同義で言い換えるとどのような表現になるか、具体例は何かを考えておく。	PI2-2
<input type="checkbox"/>	授業では、定義を基に具体例を考える「具体例“生成”」の活動や同義となるように言い換える「同義文“生成”」の活動を設定する。	PI2-2
<input type="checkbox"/>	教科書の定義文は、教師が解釈して板書するのではなく、教科書のとおり板書する。	PI2-2
<input type="checkbox"/>	「きちんと」、「ちゃんと」、「工夫して」等、言葉を受け取った側の捉えが一意に決まらない表現は避け、意図や目標を明確に言語化する。(具体例同定の視点をもって教材研究する。)	PI3-3
<input type="checkbox"/>	文章を読むときには、「文字を音に対応付け、その音を土台として『意味』にたどり着く」という過程があるため、すべての教科で教科書の音読に取り組む。	PI3-4
<input type="checkbox"/>	教科書を正しく読むための方略(例:文章に線を引くなど)を明確化し、子供たちに伝える。	PI4-5
<input type="checkbox"/>	教科書を正しく読むための方略が、なぜよいのかを子供たちに伝える。	PI4-5
<input type="checkbox"/>	教科書を正しく読むための方略を使うための意図的な練習の機会を設定する。	PI4-5
<input type="checkbox"/>	課題の達成についてのみフィードバックするのではなく、課題解決の過程についてフィードバックをする。	PI4-5
<input type="checkbox"/>	「とても楽しかったです。」「すごいと思いました。」など、子供たちがよく使うあいまいな表現ではなく、具体的に表現させる。	PI4-6
<input type="checkbox"/>	なぜそうなるのかという理由を説明させたり、本当にそう言えるのかという妥当性を判断させたりする。	PI4-6
<input type="checkbox"/>	教科書の文章を図表等に表現させる。	PI4-6

授業づくりワークシート

教科		教科書	
小単元名		ページ数	

本時の目標を達成するために
おさえない言葉・内容

子供たちにとって親密度の
低い言葉

音読の際の注意点

RSTの視点での手立て

授業実践事例

小学校

第2学年

国語科

単元名

そうぞうしたことを、音読
げきであらわそう(お手紙)

係り受け解析

イメージ同定

推論

本時の目標

がまくんの気持ちが変化の様子を読み取り、がまくんになりきって音読することができる。

学習内容・活動	教師の支援や留意点
<p>○ 3の場面の後半部分の文章について、主語を明確にして正確に内容を把握する。また、最初と最後の挿絵と叙述を照合して気持ちの変化に気付き、そのきっかけやどんな気持ちになったのかを叙述や語句に着目して読み取る。</p>	<p>○ ICTを活用し、主語を隠した文章を提示し、全体で誰の言葉か確認しながら音読をする。(係り受け解析)</p> <p>○ 最初と最後の挿絵を提示し、その挿絵を表している文章を確認する。その際、挿絵や叙述に着目し、気持ちが変化したことを捉えやすくする。(イメージ同定)</p> <p>○ がまくんの気持ちが変化したきっかけについて根拠となる部分にサイドラインを引き、自分の考えをもたせる。(推論)</p>



<イメージ同定>

- T: 最初と最後の挿絵を見て、気付くことはあるかな。
 C: 最初は、がまくんが寂しそうだけど最後は二人が笑顔になっている。
 C: 最後の絵は笑顔で肩を組んでいるよね。
 T: 最初と最後でがまくんの気持ちは変わったのかな？
 C(全員): 変わった。悲しい気持ちからうれしい気持ちになった。
 T: じゃあ、それが文章ではどんな風を書いてあるかな？教科書のどこ？



<推論>

- T: がまくんの気持ちはどうして変わったのかな？
 C: かえるくんががまくんにお手紙を書いてくれたことがわかったから、悲しい気持ちだったのがうれしい気持ちに変わった。
 T: お手紙をもらったからうれしい気持ちになったの？
 C: お手紙に「親愛なる」って書いてくれたからうれしい気持ちに変わった。
 C: がまくんは今まで手紙を一度ももらったことがなかったからうれしくなった。
 T: でもまだ手紙は届いていないよね。なんでうれしい気持ちになったの？
 C: 親友であるかえるくんと一緒に待ってられるから。
 C: 肩を組んで、二人で待っている時間も幸せだからじゃない？
 T: なるほど。手紙をもらうことだけでなく、友達と待つ時間も幸せなんだ。

□実践のポイント□

- ・会話文から登場人物の気持ちを想像させるために、デジタル教科書を活用して主語を隠した文章を提示し、動作主を確認させました。音読する際には、驚きや嬉しさなどの気持ちを意識させることで心情読解の一助としました。
- ・登場人物の心情の変化に気付かせるために、二つの挿絵と叙述を構造的に板書に提示し比較させました。変化のきっかけになった「お手紙」に書かれていたことをもとに、なぜ、それががまくんの心情変化につながったのかについて焦点化して考えさせ、児童の考えをつないでいきました。
- ・自分の考えを書き、根拠となった叙述や語句にサイドラインを引く時間を十分に確保しました。書ける児童については「根拠」を複数選んだり、「理由」も書くようにしたりするよう指示し、根拠が複数あると推論の説得力が強くなることも伝えました。

授業実践事例

小学校

第4学年

国語科

単元名

きょうみをもったところを中心に紹介しよう
『ウナギのなぞを追って』

照応解決

推論

本時の目標

教材文の「中」のまとまりを文末やキーワードに気をつけ、写真や図表と照らしながら読み、調査の道筋を整理することができる。

学習内容・活動	教師の支援や留意点
○ ウナギがたまごを産む場所を見つけるまでの調査の道筋を確かめる。	○ 「東へ行くほど、とれるレプトセファルス(ウナギの幼生)は小さくなっている」「ある地点をこえると(レプトセファルスが)ぱったりととれなくなる」という二つの文を言い換えたり図に示したりすることで、筆者が気づいたことを正確に捉える。(推論) ○ 筆者の言う「ある地点」の示す場所を、指示語や図を追って考え、「ある地点」を正確に捉える。(照応解決)

T:「とれるレプトセファルスが、東へ行くほど小さくなる」ということから何が分かりますか?

C:レプトセファルスが東のほうで生まれて、西に泳ぎながら大きくなっているということが分かります。(教師が図で補足する)

T:そうだとすると、これより東に行くとなんが見つかりそうですか?

C:たまごが見つかると思います。
(途中省略)

T:「ある地点をこえると、とれなくなる」ということから分かることは何ですか?

C:「ある地点」でレプトセファルスが生まれた可能性が高いということだと思います。



T:「ある地点」とは、どんなところか詳しく言えますか?

C:「おおきな海山が連なっているところ」です。

T:どの文を読んで、それが分かったのですか?

C:「そこには、大きな～」の文です。「そこ」は、「ある地点」のことを示しています。

T:「これらの海山」は何を示していますか?

□実践のポイント□

・教材文『ウナギのなぞを追って』は、正確に読み解くためにリーディングスキルが求められる教材です。本時で扱った「東へ行くほど、とれるレプトセファルスは小さくなっています」のような文は、文脈を正確に追い、推論を働かせないと理解しにくい文です。そのため、本時では「その文から分かること」を問い、違った言葉や文で言い換えて説明させたり【同義文“生成”】図で補足したりすることで全体で共有し、正確に捉えることができるようにしました。

・本時で扱った教材文の中の「ある地点」「そこ」「大きな三つの海山」「これらの海山」「海山の連なり(※図中)」といった言葉は、すべて同じ場所を示す言葉です。これらの言葉の関連を押さえることで、言葉どうしのつながりや、指示語と、それが指す言葉とのつながりが、明らかになるようにしました。

単元名

地理的分野 アフリカ州

イメージ同定

本時の目標

資料から読み取ったアフリカ州の産業や社会の様子を根拠として、この地域に経済的に貧しい国が多い理由を考えることができる。

学習内容・活動	教師の支援や留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○ アフリカ州の産業や社会の様子を資料から読み取り、ワークシートに文章でまとめる。 ○ 資料から読み取ったことを根拠として、課題について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の注目すべきポイントを事前に提示する。 ○ 資料のどの部分に注目したのかがわかるように、ワークシートに提示した資料に丸印や矢印を書き込ませる。グループで話し合う際にも、資料を指し示しながら説明させる。 ○ 文章資料を読み取る際や、まとめた文章を記述・発表する際には、主語・述語・指示語などの内容を明確にさせる。曖昧な場合は、教師が問い返しを行って確認する。

～資料を読み取るポイント～

- ① 資料が何を示しているのかを、**資料のタイトル**や**凡例**で確認する!
- ② **特に多い(高い)ところ、少ない(低い)ところ、変化が大きいところ**に注目する!
- ③ 具体的な**数値**も確認する。**単位**に注意!
実数なのか、割合なのか。
- ④ 複数の資料から読み取れる内容を**整理・比較**して、総合的に考える!

[グラフ「カカオ豆の国際価格の推移」について]

- S:カカオ豆の価格は、高くなっている。
T:確かに、2010年の価格は高くなっていますが、**それ以外の年はどうなっていますか?**
S:高い年もあれば、低い年もある。
S:変化が激しい。
T:長い期間を通してみると、**価格の変動が大きい**ですね。

資料を読み取る前に生徒と確認します。その資料がどのような情報を示しているのかを明らかにして、文章でまとめさせます。これにより、以下のような曖昧な表現が少なくなりました。

- ×「原油が多い」
- 「**ナイジェリアの輸出額の内、原油が69%**と高い**割合**を占めている。」

グラフの一部分だけに注目している生徒に対して**問い返し**を行うことで、「資料のどこに注目するか」「どのような言葉で表現すべきか」など視点を広げることができました。



□実践のポイント□

- ・「イメージ同定」の力が低いと、文章が示す内容が資料のどの部分でどのように示されているかを読み取ることができません。そこで、「イメージ(資料)を文章で適切に表現する」学習活動を通して、教科書の文章を正しく読むことができました。
- ・社会科では、資料から読み取ったことをもとに思考・判断・表現することに重点が置かれているため、本時は、資料内容をアウトプットする学習活動を中心に行いました。
- ・アウトプットの際には、「資料のどこに注目しているか」「主語が何なのか」を明らかにして表現することを習慣化するまで意識させることで、文章を読む際にも同じことに注意するようになってきました。

授業実践事例

小学校

第2学年

国語科

単元名

読んで、かんじたことをつたえ合おう(スーホの白い馬)

イメージ同定

推論

本時の目標

白馬とスーホの心が一番強く結びついたのはどこなのか、場面を比べることを通して、スーホと白馬の心の結びつきを深く読み取ることができる。

学習内容・活動	教師の支援や留意点
<p>○ 3つの場面を比較し、スーホと白馬の心が一番結びついたところはどこか叙述を根拠として自分の考えをもち、話し合う活動を通して、心の結びつきの強さを読み取る。</p>	<p>○ 挿絵と文章を合致させたり、正しい順番に入れ替えたりすることで物語の内容や構成を再確認する。また、自分が選んだ場面にネームプレートを貼らせることで自分の立場を明確にさせる。(イメージ同定)</p> <p>○ なぜその場面を選んだのか根拠となる叙述や語句にサイドラインを引かせ、理由を書かせる。その際、根拠と理由が混在してもよいことを伝え、問い返しをしながら根拠と理由を分類し、構造的に板書する。(推論)</p>



<イメージ同定>

T: (3つの挿絵を順不同に並べ)この順番で良かった?

C: 全然違うよ。最初に白馬が死んじゃってるもん。
(並び替える。)

T: この3つの場面って何が書いてあった? この文章で合ってるかな?

C: おおかみがない絵なのに「おおかみが」って書いてあるから違う。
(挿絵と文章を照合する。)

T: 心の結びつきが一番強いと思う場面にネームを貼りましょう。

<推論>

(「白馬がスーホのところに戻ってきた場面」について)

T: ○○さんが「白馬は、ひどいきずをうけながら、……帰ってきたのです。」とあるからこの場面だと言っているけど、どんな理由だと思う?

C: 白馬はスーホが大好きだから。

C: 心がつながってなければ苦しい思いをして帰って来ないと思うから。

T: この場面での心のつながりはどうかな。前の場面と比べるとどう?

C: 前の場面もつながったと思うけど、約束を守ろうとして帰ってきたからもっと強につながったと思う。

C: 何本も矢が刺さってすごく痛かったろうけど、がまんしてスーホのところに戻ってきたから二人の心は強につながったと思う。

□実践のポイント□

- ・挿絵と文章を照合させることで、文章の構成や内容を確認すると同時に、複数の場面を比較して考えるという本時の学習課題につなげます。「一番強く心が結びついた場面」を考え、挿絵にネームプレートを貼らせることで自分の立場を明確にし、全体での共有の場に生かしていきました。
- ・全員に自分の考えをもたせるために「3つの場面」から一番を決めさせます。その後、なぜその場面を選んだのか「根拠」を教科書の叙述や語句から探し、サイドラインを引かせてから「理由」を書かせました。その際、書く型(「～から」に続くように)を提示することで「係り受け解析」についても意識させることができました。
- ・児童から出た「根拠」と「理由」は教師が意図的に分け、類型化して板書することにより、振り返りの場面で再度自分の考えを書くための手がかりとなりました。
- ・めあてを「スーホと白馬の心が一番強く結びついているのはどこの場面か」としました。意図的に「一番」を考えさせることにより、子供たちは、叙述に着目し、言葉による見方・考え方を働かせ、心の結びつきが強くなっていったことに気付くことができました。

授業実践事例

中学校

第2学年

社会科

単元名

欧米の進出と日本の開国

イメージ同定

推論

本時の目標

フランス社会の様子を表した資料を読み取ることを通して、フランス革命により社会がどのように変化したのか説明することができる。

学習内容・活動	教師の支援や留意点
<p>○ 3枚の風刺画が表す内容を読み取り、当時のフランス社会を表す説明文を書く。</p>	<p>○ フランス革命前後に描かれた風刺画が何を表しているか考え、説明文に表すことを通して、図的表現から情報を読み取る力を高めていく。(イメージ同定)</p> <p>○ 人物の特徴やその周囲にある物など、気になった描写について付箋に書いて貼っていくことで、説明文を書く際のポイントをグループで共有する。</p> <p>○ グループでの話合いや全体での発表の際に、説明文の根拠は風刺画のどこにあるのか問い返すことで、図と文章の関連を意識できるようにする。</p>



【風刺画を読み取る】

C:この人たち驚いてるね。
 C:貴族と聖職者かな。倒れているのは誰？
 C:平民だと思う。何かつかもうとしているね。
 T:いいところに注目したね。それが何だかわかる？
 C:銃に見えます。これ、もしかして革命のことですか？
 C:そうだよ！この鎖も関係ありそう。
 C:どんな意味があるのかな？



【2枚目の風刺画】

2枚目の風刺画の説明文

「17世紀後半のフランスでは、平民が武器を取って革命を起こそうとしており、それを見た貴族と聖職者が驚いている。平民は自由を求めている、身分の差をなくしたいと思っている。」



この風刺画を見て、「平民が自由を求めている」と考えたのはなぜですか？

鎖を外そうとしているからです。この鎖は重い税や身分の差を表していると思います。

□実践のポイント□

- ・資料の内容を、教師が説明したりまとめたりするのではなく、生徒が教科書や資料集を活用して調べ、自分たちの言葉で説明文を記述するようにしました。
- ・風刺画は、内容に虚構の部分を含むことを踏まえ、生徒は、誇張表現や比喻表現を通して作者のメッセージを読み取りました。事実を基に推論する力が求められます。
- ・RSTでは文から正しい図を選びますが、図に表されている情報についての正しい説明文を書くということも「イメージ同定」の高度な活動です。
- ・資料について考えるために必要な知識を事前に確認し、既習事項を振り返ったり、教科書で調べたりすることを通して全体で共有しました。
- ・資料から読み取った内容についてグループで話し合うことで、対話を通して自分と他の生徒の考えを比較、検討し、学びを深められるようにしました。

授業実践事例

小学校

第4学年

算数科

単元名

垂直・平行と四角形

具体例同定(理数)

同義文判定

本時の目標

作成した四角形の辺の位置関係や構成要素を基に、その四角形の特徴を調べることで、ひし形の定義や特徴について理解できる。

学習内容・活動	教師の支援や留意点
○ 折り紙を切って作成した四角形の特徴から、既習の図形の定義文に当てはめて考え、ひし形について理解する。	○ 切り取った形の特徴が、既習の図形の定義文に当てはまるかどうかを検討していくことを通して、定義文を読み解く力を高めていく。(具体例同定) ○ 台形ではないと反応する児童がいるため、なぜそう思うのかと問い返すことで、定義文の誤読を明らかにし、定義文の読解を基に既習図形の関係を統合的に理解できるようにする。



【作成した四角形の特徴を調べる】

T: 平行が2組あるってことは、1組はあるのだから台形ですね?
C: ちがう!
T: どうしてそう考えたの?
C: 台形は、
「向かい合った辺が、1組**だけ**が平行な四角形」だから。
T: 1組「**だけ**」って書いてあったかな? 台形ってどんな形でしたか?
C: 「向かい合った1組の辺が平行な四角形」です。
T: 「**だけ**」とは書いてないよ。(同義文判定)
C: でも、この形(ひし形)は平行な辺が2組あるから、台形とはいえないよ!
台形平行四辺形かな?...

辺の長さがすべて等しい四角形を、ひし形といいます。



正方形?

ひし形の定義文を学習した後で、具体例をいくつか取り上げ、ひし形といえるかどうかを考えさせます。
「なぜひし形といえるのか」
「なぜひし形といえないのか」をペアで説明させます。



□実践のポイント□

- ・教科書にでてくる定義文は、教師が解釈して板書するのではなく、教科書のとおり板書して音読しました。
- ・本時の授業だけでなく、各教科において定義文を学んだ後は、具体例を提示し、定義文と合致する具体例であるかを検討することを通して、定義文を正しく読むことができるようにします。
【具体例“生成”】
- ・子供たちは、誤概念を抱いている場合があります。そのため、授業の中ではアウトプットの機会を意図的に設定し、誤読していないか確認しました。
- ・教材研究の際は、教科書の文章の中で、本時の目標を達成するために意味を確認しなければならない言葉をリストアップしました。本時では、「すべて」「向かい合った」「特ちょう」の意味を確認しました。



令和2年度AI時代を生き抜く読解力向上事業研究協力校

伊達市立上保原小学校

福島市立福島第四中学校

岩瀬郡鏡石町立第二小学校

郡山市立高瀬中学校

西白河郡泉崎村立泉崎第一小学校

東白川郡塙町立塙中学校

会津若松市立鶴城小学校

耶麻郡西会津町立西会津中学校

南会津郡南会津町立南郷小学校

南会津郡南会津町立荒海中学校

双葉郡飯館村立いいたて希望の里学園

いわき市立平第六小学校

いわき市立中央台北中学校

